

第 11 回 じゃっど 定期総会 (14:00~15:00)

議事次第

一、 開会のあいさつ

二、 会長あいさつ

三、 議事

イ) 平成 14 年度事業活動報告

ロ) 平成 14 年度会計報告

ハ) 平成 15 年度事業計画 (案)

ニ) 平成 15 年度予算 (案)

ホ) その他

四、 閉会のあいさつ

開催日時：平成 15 年 7 月 26 日 (土)

開催場所：すこやかふれあいプラザ 3F 大会議室

14年度事業報告

1 NPO法人化

NPO法に基づく非営利団体として鹿児島県に申請手続き中である。事務局が書類作成に手間取り、進んでいない。

2 鉤虫対策（JICA小規模開発パートナー事業）

ヴィエンチャン市サイタニ郡、シーコッタボン郡で、寄生虫対策（特に鉤虫、回虫などの土壌感染寄生虫；トイレが予防に有効）をテーマにして、セミナー、検便、トイレづくり、トイレの水（流すためと、手洗い用）の設置を行った。資金はJICA小規模開発パートナー事業。（7月1日に、吉田いつこ、藤島美由紀の2名がラオスに出発。村方ちづる氏（臨床検査技師シニアボランティア）齊藤氏（井戸や水道の専門家）、奈良氏（工学部シニアボランティア）その他の協力して下さる方々を得て活動。大変高い評価を受けることができた。対象地区の子供達の行動変容までみることもできたことが評価された。

3 ボケオ、サニャブリでの学校保健事業

ボケオ県、サニャブリ県で、教員を対象にした学校保健セミナー、児童を対象にした健康診断と、駆虫薬の投与を行ってきた。今回、鉤虫対策で派遣の吉田いつこ氏が、協力隊を育てる会からの助成金を申請し、資金を確保した。ボケオではDr. ソンポン、サニャブリではDr. カンマンがマネージメントした。

4 バザーなど資金調達

井戸やトイレ、校舎の屋根、壁の工費用資金は、1年以上間前からの見積もりがしにくい。助成金よりも自己資金の方がすばやく、小さいことにも対応しやすい。前回総会で資金調達を行うことが決定した。現地から品物を持ち帰り、会員が預かって販売した。純心大学のバザー、祇園祭、日曜フリーマーケットなどでも販売した。現地で作成したTシャツが好評であった。

5 広報（総会検討案件）

現在、会員へ郵送している。郵便局においている。神崎兄妹によりホームページ完成。ラオス便りをメールで届けはじめた。

平成14年度会計報告

1 収入の部

| | | |
|--------------------|---------|------------|
| 前年度繰越 | | 738,306 |
| 会員会費(2000×177名、年) | | 392,000 |
| 寄付金(個人寄付) | | 690,184 |
| (団体寄付;九電ユニオン) | | 500,000 |
| (“じゃっど”サポート会) | | 263,644 |
| 机いす募金 | | 255,000 |
| JICA 小規模開発パートナー事業 | | 9,946,050 |
| (H14.7.1~H15.3.31) | 8506050 | |
| (H15.4.1~H15.6.30) | 1440000 | |
| 吉田さん資金(協力隊を育てる会) | | 300,000 |
| 今井基金(助成金) | | 300,000 |
| バザー収入 | | 564,720 |
| 受取利息 | | 30 |
| ツアー参加費(渡航費) | | 337,262 |
| 計 | | 14,287,196 |

2 支出の部

ラオス;

| | | |
|--------------------|-----------|------------|
| 机いす募金 | | 130,000 |
| JICA 小規模開発パートナー事業 | | 9,953,367 |
| (H14.7.1~H15.3.31) | 8,495,377 | |
| (H15.4.1~H15.6.30) | 1,447,317 | |
| JICAへ返金 | 10,673 | |
| 協力隊を育てる会の事業 | | 300,000 |
| バザー用品購入 | | 274,823 |
| ツアー参加費(渡航費) | | 337,262 |
| ポンプ代、バケツ代 | | 11,500 |
| 現地会合費 | | 20,000 |
| 小計 | | 11,026,952 |

国内;

| | | |
|---------|--|---------|
| 通信費 | | 77,782 |
| 広報費 | | 31,267 |
| 事務用品費 | | 302,462 |
| 他のNGO連帯 | | 33,000 |
| 写真 | | 12,477 |
| 会合費 | | 33,911 |
| 交通費 | | 221,410 |
| 滞在 | | 20,000 |
| その他 | | 162,655 |
| 小計 | | 894,964 |

| | | |
|------|--|------------|
| 支出合計 | | 11,921,916 |
| 繰越 | | 2,365,280 |

会計監査報告

平成14年7月1日から平成15年6月30日の期間のじゃっどの収支決算に関し、会計帳簿とその証拠書類および関係書類を監査した結果、確かに相違ないと認められましたのでここに報告します。

平成15年7月22日

監事 安部 良重



平成15年度事業計画（案）

1 事業実施の方針

ラオス国の学校保健教育の継続性を考えた、ラオス人による活動が展開されるようこれまでの活動を続けて、また発展させて行う。

国内に於いては、開発教育をすすめて、途上国への理解を求めるとともに、ラオスへの援助協力依頼に取り組む。

2 事業の実施に関する事項

2-1 ヱエンチャン

教師を対象（30名）にした学校保健教育セミナーを開催する。重点対象校を教育委員会に選出してもらい、対象者約500人に対し健康診断（寄生虫の駆虫薬投与、救急薬品の配布を含む）、文房具供与を行う。学校の建物の補強などに寄付をする。

昨年度の鉤虫対策（JICA小規模開発パートナー事業）対象校を訪問し、その後の学校保健授業の状況、トイレの使用状況を視察し、駆虫薬を投与する。また、昨年度建設したトイレ建物と自転車ポンプのメンテナンスを行う。

学校保健教材を作成する。

2-2 ボケオ、サニャブリ

教師を対象（ボケオ35名、サニャブリ35名）にした学校保健教育セミナーを開催する。重点対象校を教育委員会に選出してもらい、各地区それぞれ対象者約600人に対し健康診断（寄生虫の駆虫薬投与、救急薬品の配布を含む）、文房具供与を行う。

2-3 ウドムサイ

JICAのKIDSMILEプロジェクトから、委託を受けウドムサイ県で、活動を行う。70校を対象にする。保健と教育の協力という大きな課題をいただいている。県、群レベルでIEC（Information, Education, Communication、教材開発のこと）セミナーを開催し、70校の小学生へセミナーを受けた教師からの健康教育が届くようにしたい。

前年度に作成した”dirty water”ラオス版とそのラジオ番組を使う。

2-4 国内

鹿児島県国際協力協会、小学校、鹿児島パイロットクラブなどで、“じゃっど”の活動を含めた開発教育を行う。

15年度 予算案

1. 収入の部

| | |
|---------|-----------|
| 前年度繰越 | 2,365,280 |
| 会員会費 | 300,000 |
| 寄付金 | 200,000 |
| 机、いす募金 | 100,000 |
| JICA事業 | 4,000,000 |
| バザー収入ほか | 154,720 |
| 計 | 7,120,000 |

2. 支出の部

| | |
|---------------------------------|-----------|
| ウドムサイプロジェクト(JICA-KIDSMILEからの委託) | 4,000,000 |
| 学校保健セミナー(ヴィエンチャン、ボケオ、サヤブリ) | 264,000 |
| 学校健康診断(ヴィエンチャン、ボケオ、サヤブリ) | 250,000 |
| 文房具供与(ヴィエンチャン、ボケオ、サヤブリ) | 250,000 |
| 学校保健教材作成 | 200,000 |
| 机、いす | 100,000 |
| 学校補修工事(トイレ、自転車ポンプを含む) | 50,000 |
| 視察、評価 | 600,000 |
| ウドムサイプロジェクト(“じゃっと”負担分) | 400,000 |
| ラオス光熱費、家賃 | 600,000 |
| 国内活動費 | 383,000 |
| 通信 | 70,000 |
| 広報 | 70,000 |
| 事務用品 | 50,000 |
| 他のNGO連帯 | 33,000 |
| 写真 | 20,000 |
| 会合 | 10,000 |
| 滞在 | 20,000 |
| 交通 | 100,000 |
| その他 | 10,000 |
| 予備費 | 23,000 |
| 計 | 7,120,000 |